

《平成24年度》

1 設定値達成状況

項目 (単位%)	平成24年度		達成状況
	設定値	決算	
医業収支比率	93.9	93.9	○
経常収支比率	100.7	100.9	○
給与費対医業収益比率	53.0	55.3	
薬品費対医業収益比率	22.5	22.1	○
診療材料費対医業収益比率	10.3	9.9	○

入院	稼働病床利用率 (%)	81.4	81.0	
	1日平均患者数 (人)	394.0	391.9	
	1日当り診療単価 (円)	48,812	50,984	○
外来	紹介率 (%)	60.0	58.5	
	1日平均患者数 (人)	985.0	935.8	
	1日当り診療単価 (円)	15,937	17,435	○

【評価】

平成23年度に続いて経常収支比率、医業収支比率及び薬品費医業収益比率、診療材料費対医業収益比率は設定値を達成した。手術件数及び検査件数の増により入院・外来診療単価の増と、平成25年度は消化器内科・神経内科常勤医派遣による患者数の増加が予想され、収支の改善が見込まれる。

2 施策の達成状況

【患者サービスの向上】

(1) 市民及び患者満足度の向上

① 意識調査、満足度調査の実施

《実施期間》 H24. 10. 17～10. 20

《対象》 外来患者979人、入院患者341人

《回収》 外来患者766人（回収率78.2%） 入院患者201人（回収率58.9%）

《内容》 受付・医師・看護師に対する印象、施設環境について、
かかりつけ医の有無等

② 接遇向上対策の推進

接遇研修の実施

平成24年度実施 参加者：205人

講師：中北薬品(株)企画経営本部マネージャークラ部 田代公子氏

③ 外来待ち時間の短縮

電子カルテシステムのデータを利用して、外来待ち時間を分析。

紹介状の有無、予約の有無、検査の有無等の項目別の調査を行い、管理会議で報告し、各所属で検討した。

(2) 患者さんの利便性・快適性の向上

① 快適な療養環境の維持

2階食堂を弁当持込み可（9時～11時、14時～17時）とし、食事スペースを確保した。

② 施設・設備の有効活用

別館病棟の改修と共に、本館産科病棟6人室（3室）を4人室に、小児病棟は4人室（2室）を個室4室に、10床の乳児室を2人室（2室）にするなど、入院中の療養環境の向上を図った。また、別館3階病棟再開に伴い、施設の改修を行った。

(3) 情報発信の推進

③ 院外向け講演会・各種教室等の開催

・「市民公開講座」

H24. 7. 18 『女性ホルモンと健康 ～妊娠・出産・更年期に備えるために～』

講師：浜松医科大学医学部産婦人科教授 金山尚裕氏

・「出前講座」

59講座 実績：42回

【良質な医療の提供】

(1) 医療の質の向上

⑤ 高度医療機器の適切な導入

地域の基幹病院として求められる高度な医療機器を計画的に整備するため、MRI (3.0テスラ)を導入し、病診連携の更なる充実を図った。

(2) 安心・安全な医療の提供

① 医療安全管理体制の充実

医療安全管理委員会等の組織を見直し、医療安全対策活動を強化した。

【経営基盤の強化】

(1) 組織・規模の見直し

① 病院事業規模の見直し

- ・ 休止していた別館2階病棟の病床を返還し、産婦人科外来、通院治療室の移設拡充、女性専用の外来の新設等外来機能の充実を図った。
- ・ 平成25年4月からの消化器内科・神経内科の入院診療の開始に伴う入院患者の増加を見込み、診療科の病棟配置を再編し別館3階病棟を再開した。

(2) 収入の確保

② 紹介患者数の増加

- ・ 紹介率の向上を図るため、当院の医師を紹介したパンフレットを地域の医療機関に配付した。
- ・ 病診連携の推進のため、検査や画像等の診療情報を通信ネットワークで閲覧することができる「ふじのくにねっと」に情報開示施設として10月に参加した。

④ その他

- ・ 中央病院ウェブサイト上でのバナー広告（1枠5,000円）
212,600円（5社）
- ・ 病院だよりへの広告掲載枠（1枠30,000円）
210,000円（4社）

(3) 費用抑制対策

② 医薬品費の抑制

薬剤の購入価格交渉を委託化し、納入価格の抑制を図った。

【評価】

- ・ 患者さんアンケートの結果、個別の項目の満足度が増加した。
- ・ 接遇研修は、より多くの職員の参加に対応するため、複数回の実施を検討する。
- ・ 外部講師を招いた市民公開講座の開催は1回で、来年度は複数回の実施を検討する。
- ・ 外来待ち時間調査を継続して実施しているが、今年度より管理会議及び院内連絡会議で報告することとなり、職員全体で待ち時間の状況を認識することができた。調査報告を基に各所属に待ち時間短縮対策の提案を求めるなど、病院全体で待ち時間対策を検討した。
- ・ 高度医療機器の計画的な導入として1.5テスラのMRIを3.0テスラの機種に更新した。検査件数の増加による診療収入の増と合わせて、昨年度導入したMDCTとともに市内の診療所等との共同利用を進め、病診連携の推進を図る。
- ・ 休止していた別館2階病棟は産婦人科外来、通院治療室の移設拡充、女性専用の外来の新設により再開され、別館3階病棟は入院患者数の増を見込み再開した。来年度は外来機能の充実と全病棟の稼働により、入院・外来とも診療収入の増加を見込む。
- ・ 紹介率の向上を図るため医師紹介パンフレットを作成し、市内診療所等へ配付した。来年度以降もパンフレットを更新し、診療所等へ直接訪問し、紹介依頼を進めていく。
- ・ 薬剤師を病棟に配置し、入院診療体制の強化を図るため、来年度6月から院外処方へ移行する。移行後は外来分の薬品費が減少するが、入院にかかる薬品の後発医薬品への切り替えを進め、更なる薬品費の抑制を図る。
- ・ 来年度が計画の最終年度となるが、状況の変化による施策内容の見直しを図るなど、計画達成に努めていく。